

U.S. Indicators

米国 ブレグジットショック後も米製造業活動は安定(16年7月ISM製造業景気指数)

発表日：2016年8月1日（月）

～新規受注、生産D Iが高い水準を維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
15/11	48.4	49.0	49.8	50.8	43.0	49.6	43.0	35.5	47.5	49.0
15/12	48.0	48.8	49.9	48.0	43.5	49.8	41.0	33.5	51.0	45.5
16/01	48.2	51.5	50.2	45.9	43.5	50.0	43.0	33.5	47.0	51.0
16/02	49.5	51.5	52.8	48.5	45.0	49.7	48.5	38.5	46.5	49.0
16/03	51.8	58.3	55.3	48.1	47.0	50.2	51.0	51.5	52.0	49.5
16/04	50.8	55.8	54.2	49.2	45.5	49.1	50.5	59.0	52.5	50.0
16/05	51.3	55.7	52.6	49.2	45.0	54.1	47.0	63.5	52.5	50.0
16/06	53.2	57.0	54.7	50.4	48.5	55.4	52.5	60.5	53.5	52.0
16/07	52.6	56.9	55.4	49.4	49.5	51.8	48.0	55.0	52.5	52.0

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

製造業景気指数は52.6 と前月比0.6%ポイント低下

15年7月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、52.6と前月比0.6%ポイント低下したが、拡大縮小の分岐点である50を5カ月連続で上回った(市場予想中央値53.0、筆者予想52.3)。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、在庫(前月比+0.20%p)、生産(前月比+0.14%p)が押し上げ寄与となった一方で、入荷遅延(前月比▲0.72%p)、雇用(前月比▲0.20%p)、新規受注(前月比▲0.02%p)が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比0.6%ポイント低下した。

6月23日の英国のEU離脱を問う国民投票の結果を受けて金融市場が一時的に混乱したほか、イギリスの景況感などが悪化しているものの、6、7月の米製造業活動調査では米製造業への影響は確認されなかった。米国製造業の活動は、ここ数カ月のドルの下落や原油価格の上昇、石油掘削リグの稼働数の増加、在庫調整の進展等を背景に、安定している。ただし、依然としてドル実効レートが高い水準であるほか、世界的な需要鈍化の影響を受け、製造業活動の拡大の勢いは緩やかなものとなっている。

なお、総合(全18業種)で拡大した業種は、繊維・印刷・関連サポート活動、その他製造業、木材製品、家具・同関連、化学製品、食品・飲料・タバコ、加工金属、非鉄、石油・石炭、コンピューター・電子機器の11業種(前月13業種)に減少した一方で、縮小した業種は、アパレル、電気設備・部品、プラスチック・ゴム、一般機械、一次金属、輸送機器、紙製品の7業種(3業種)に増加した。

今後も、製造業景気指数は緩やかな拡大を示す水準で推移する公算

7月の新規受注が56.9と前月から0.1%p低下したものの高い水準を維持した。輸出受注の低下によって押し下げられたが、安定的な拡大を続けている国内受注が新規受注を支えている。今後、6月末の金融市場の混乱やブレグジットショック等の影響で外需

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

がある程度弱含んでも、個人消費を中心に国内需要は堅調を持続するとみられ、新規受注は拡大を続けると予想される。また、7月の在庫は49.5と前月から上昇したが、依然として縮小を示す低い水準にとどまっている。以上より、今後のISM製造業景気指数は、在庫調整を続ける業種が足かせとなるものの、国内最終需要の増加に支えられる形で、製造業の緩やかな拡大を示す水準を維持すると予想される。

